

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

ACTIVITY DIGEST

2015

活動実績ダイジェスト

Contents

滋賀医科大学のこの1年	01
SUMSプロジェクト	02
教 育	03
研 究	04
診 療	05
国際交流	06
社会貢献	07
財務状況	08
業務運営・改善	09



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

滋賀医科大学のこの1年

2015年4月

- ・入学宣誓式、大学院入学宣誓式
- ・全学フォーラム

5月

- ・浜松医科大学との交流会
- ・解剖体納骨慰霊法要

6月

- ・名誉教授称号授与式
- ・経営協議会
- ・関連病院長会議
- ・奨学金授与式

7月

- ・滋賀県原子力防災訓練
- ・オープンキャンパス(医学科)
- ・オープンキャンパス(看護学科)

8月

- ・オープンキャンパス(博士課程教育リーディングプログラム)
- ・学位論文(博士)研究発表会

9月

- ・地震防災訓練
- ・学位論文(修士)研究発表会
- ・(独)地域医療機能推進機構と「地域医療教育研究拠点」に関する協定締結

10月

- ・医学科第2年次後期学士編入学並びに秋季大学院医学系研究科博士課程・修士課程入学宣誓式
- ・学位授与式
- ・機関別認証評価受審
- ・「滋賀医科大学医学部附属病院の最新治療がわかる本」発行
- ・解剖体慰霊式
- ・若鮎祭(学園祭)
- ・研究動物慰霊式

11月

- ・経営協議会
- ・学外有識者会議
- ・報道機関との懇談

12月

- ・全学フォーラム

2016年1月

- ・在宅看護力育成事業訪問看護師コース開講
- ・外国人留学生との交流会
- ・院内図書室貸出者数4万人達成
- ・学位論文(博士)研究発表会
- ・経営協議会

2月

- ・事務職員、技術職員研修・業務成果発表会
- ・学位論文(修士)研究発表会
- ・大学を支える人材を育むための研修
- ・滋賀医科大学シンポジウム

3月

- ・卒業式、学位授与式
- ・女性研究者賞授与式
- ・看護師特定行為研修機関に指定
- ・経営協議会
- ・病院派遣型救急ワークステーション運用開始
- ・スチューデント・ドクター認定式
- ・定年退職者壮行会

「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」

法人化第二期(2010～2015)の目標をSUMS project 2010-2015「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」にまとめました。これは第一期に得られた成果を生かし、さらに充実発展に向けたものであります。

1

地域基盤型教育・研修 (Society-based Education)

地域基盤型教育を推進し、医療福祉の分野で活躍する人材を育成する。

- ① 早期体験実習、患者宅訪問授業、模擬患者の会や里親との交流の充実、医学科定員増に対応した設備や学習環境の整備
- ② Science, Arts, Ethics を軸としたカリキュラム編成
基本的知識と最新医学の知見、スキルズラボの活用
医療水準Ⅱの確保と臨床実習の評価基準、継続的な倫理教育
- ③ 医師・看護師国家試験合格率、各々95%以上、98%以上の達成
- ④ 任期付教職員の導入による業務の活性化
- ⑤ 優秀教員の表彰、優秀学生の奨学金給付、学生支援の拡充
- ⑥ 魅力ある研修プログラムによる総合医、専門医、地域医療支援医師の養成
- ⑦ メディカルスタッフの教育プログラムの推進

2

独創的研究 (Unique Research)

基礎医学と臨床医学との融合による新領域の研究を展開する。

- ① 重点研究と独創的各個研究の推進
- ② 研究グループの組織化による研究の強化
- ③ 大学院学生数100%確保、留学生の在学学生数の増加
- ④ 教職員海外研修や留学生等の支援による国際交流の促進
- ⑤ 産学連携の推進

3

充実した医療 (Mindful Medical Service)

先進医療と高度医療を推進し、地域医療に貢献する。

- ① 先進医療と高度医療の推進
- ② オーダーメイド医療の開発
- ③ 再生医療への取組
- ④ 低侵襲医療
- ⑤ 地域における不可欠な医療分野の強化

4

戦略的組織活性化 (Strategic, activated Service)

組織の活性化で大学の機能を向上する。

- ① 教職員のキャリアアップ支援体制
- ② 業務の省力化、効率化にむけたボトムアップ体制の強化
- ③ 積極的な情報公開
- ④ 男女共同参画社会の実現に向けた具体的取組
- ⑤ エコプロジェクトの推進
- ⑥ 収支バランスの改善によるソフト面の強化

高い国家試験合格率を維持するための取り組み

共通試験(CBT)、模擬試験や卒業試験の結果を分析し、個々の学生に合わせた支援を継続的に実施しています。

医師 合格率

93.9%(全国平均 91.5%)

看護師 合格率

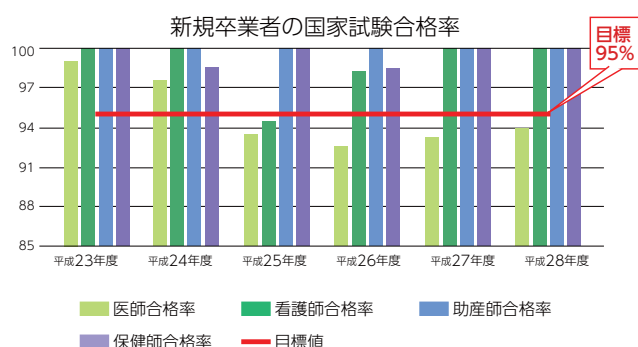
100.0%(全国平均 89.4%)

助産師 合格率

100.0%(全国平均 99.8%)

保健師 合格率

100.0%(全国平均 89.8%)



医学科

- マンツーマン方式のきめ細かい指導
- 国試対策の早期取組
- 不得意な分野の補講の実施
- 学習室の確保 など

看護学科

- 工夫されたカリキュラムと十分な教育指導
- 国試対策の早期取組
- 学年担任とゼミ担当教員の連携した指導 など

医学科カリキュラムの改革

国際基準に対応した医学教育認証制度への対応及び卒前・卒後のシームレスな教育研修制度の構築のため、厚生労働省臨床研修審査専門官の経歴を有する者を臨床教育講座専任教授に配置し、教育改革担当学長補佐とともに、医学科新カリキュラムの策定を進めています。

◆ 新カリキュラムの特徴

- 福祉施設や医療施設等を含む学内外での実習を、入学直後から段階的に配置
- 行動科学などの専門職としてプロフェッショナリズムを継続的に学ぶカリキュラム

アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト

このプログラムは、国内外の産学官の広い分野において、アジア太平洋州のトップリーダーとして活躍するNCD対策の専門家を育成するものであり、言語力の育成だけでなく、国際的視野の育成、国際競争力の育成に必要なグローバルな教育研究・生活環境を確保しており、今年度は現任のWHO本部職員を招聘し、WHOの現状と今後の課題に関する講義を実施しました。また、第2学年では海外短期研修を必須とする画期的カリキュラムにより、イギリス(インペリアル・カレッジ・ロンドン)及びオーストラリア(シドニー大学)へ学生を派遣しました。

文部科学省グローバルアントレプレナー事業「i KODEプログラム^{*1}」の充実

昨年度は学術交流協定校であるカナダ オタワ大学からクランティス教授(医学部・細胞分子医学分野)を招聘し、ご自身の研究成果の実用化や起業について講演をいただきました。

さらに、今年度はオタワ大学の優れたアントレプレナーシップ教育を本学のiKODEプログラムに取り入れるため、本学受講生とオタワ大学工学部学生を交換留学生として相互交流することが合意されました。



クランティス教授による講演会：ポスター

^{*1} iKODE[®]プログラムとは…本学が、しが医工連携ものづくりネットワークと連携してきた実績を活かし、イノベーションにつながるデザイン思考と、事業規制の理解をサポートするプログラムです。様々な知識を身につけながら、ビジネスの現場で、医療の未来を担うアントレプレナー(企業家)の育成をサポートします。特に、未来の医療につながるデザイン思考を取り入れることで、革新的なもののづくりやサービスの創出を実現していきます。

^{*2} 「iKODE」…i (医学) KO (工学) DE (デザイン)という言葉を組み合わせて、「高みに行こうで(ぜ)!!」という思いが込められています。

本学大学院生Pang Xiaolingさん(生化学・分子生物学講座(分子病態生化学部門)が日本循環器学会国際留学生YIAを受賞

この賞は、海外から日本へ留学し循環器学領域で研究を行っている若手研究者を対象として、循環器学に関する基礎的あるいは臨床的研究で、優れた研究成果を挙げたことを表彰するものです。

Pangさんは「タンパク質分解酵素Dipeptidyl peptidaseⅢ(DPPⅢ)が、昇圧物質アンジオテンシンⅡを分解することで降圧効果をもたらし、心臓や腎臓の保護作用を有する」ことを独創的な発想と実験法で明確に示したことが高く評価されました。



大学院生Pang Xiaolingさん：平成28年3月

重点プロジェクトの推進

本学の特徴を生かした5つの研究を「重点プロジェクト」として推進しています。

平成27年度の主な研究成果

サルを用いた研究

緑色蛍光タンパク(GFP)を発光する遺伝子組換えカニクイザル1頭を得ることに世界で初めて成功しました。更に外見からGFPの発現を判断することができない4頭のカニクイザルを得ましたが、全て遺伝子組換え個体でした。



GFPを発現するカニクイザル：左と野生型カニクイザル：右

神経難病研究

本学で開発した化合物Shiga-Y5がアルツハイマー病の治療効果を持つことを動物実験で明らかにし、国際学術誌で発表しました。この研究成果は、文部科学省新学術領域班会議「脳内環境」からプレスリリースされました。

生活習慣病医学

糖尿病性腎症進展・腎機能悪化の臨床診断マーカーとしてカリウム摂取量を新たに同定しました。糖尿病における低血糖リスク、合併症と中心動揺などの関連を看護学科と共同研究を行い、いずれも論文を発表しました。

総合がん医療推進研究

肺がんペプチドワクチン療法医師主導治験を完遂し、がんのバイオマーカーや個別化医療の開発研究の成果を国際学術誌4報(Scientific Report. 2016他)に掲載されました。

バイオメディカル・イノベーションセンター

臨床導入準備中のマイクロ波手術デバイス試作機は、切除と縫合の機能を併せ持ち、1つの機器で肝臓や脾臓の部分切除ができる手術手技を開発しました。

保健文化賞*を受賞

上島弘嗣名誉教授(医学部社会医学講座前教授、現アジア疫学研究センター特任教授)が、NIPPON DATAなど長年にわたる循環器疫学研究の成果とそれに基づく公衆衛生活動が高く評価され、第67回「保健文化賞」を受賞しました。

*保健文化賞とは：保健衛生分野において権威ある賞として認められており、健康増進、疾病予防などの保健医療分野、高齢者・障害者の保健福祉分野、少子化対策等の多岐の分野において顕著な実績を残された団体および個人を表彰しているもの。



贈呈式の様子



上島名誉教授

上田賞を受賞

アジア疫学研究センター久松隆史特任助教が、2015年日本心臓病学会「上田賞」を受賞しました。この賞は、最近1年間に「Journal of Cardiology」「日本心臓病学会誌」に掲載された原著論文の中から最優秀論文を顕彰するものです。

本年度の最優秀論文「上田賞」に選ばれた久松特任助教の論文は本学社会医学講座(公衆衛生学部門)三浦克之教授が代表を務める厚生労働省研究班(指定研究) NIPPON DATA研究からの研究報告です。

[High long-chain n-3 fatty acid intake attenuates the effect of high resting heart rate on cardiovascular mortality risk: A 24-year follow-up of Japanese general population. (Journal of Cardiology. 2014;64(3):218-24.)]



授賞式の様子



久松特任助教

大学発ベンチャー表彰*特別賞を受賞

医学部精神医学講座山田尚登教授(現 理事)の臨床研究で取得した研究成果を活用した「脳波からうつ病の診断基準を導きだす」という新規性のある発明(企業名:スリープウェル株式会社)が特別賞を受賞しました。

*大学発ベンチャー表彰とは：国立研究開発法人科学技術振興機構及び国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が主催する大学等の成果を活用して起業した大学発ベンチャーのうち、今後の活躍が期待される優れた大学発ベンチャーを表彰するとともに、特にその成長に寄与した大学や企業等を表彰しているもの。

ハイブリッド手術室の完成によるTAVIの成功

高性能放射線透視装置を備付けた手術室が完成し、高画質の放射線画像で確認しながらの手術で従来の手術室では対応困難であった症例にも対応可能となり、滋賀県内で初めて経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)*を実施した。

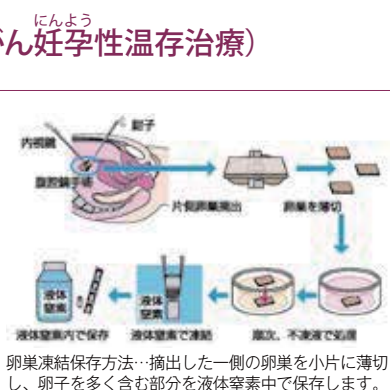


ハイブリッド手術室

*経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI): 胸を開かず心臓が動いている状態でカテーテルを使って人工弁を患者さんの心臓に装着する治療。体への負担が少ないため、ご高齢のため体力が低下している患者さんや肺などの疾患などで外科手術のリスクが高い患者さんにとっての新しい治療法。

卵巣凍結保存(がん妊孕性温存治療)

抗がん剤や放射線治療により卵巣機能が低下しますが、その前に卵巣を凍結保存し、原疾患の治療後に卵巣を融解し、患者さんの体に移植する技術です。日本では、本治療を行っている施設はまだ少数ですが、本院母女性診療科内にがんや自己免疫疾患などの患者さんの妊孕性温存外来を開設しました。



卵巣凍結保存方法…摘出した一側の卵巣を小片に薄切し、卵子を多く含む部分を液体窒素中で保存します。

先進医療の推進

平成27年度に新たに1件の先進医療が承認され、計7件の先進医療を実施しています。

新たに承認された先進医療

リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法

◆ 概要

ミコフェノール酸モフェチル(以下:MMF)は、わが国ではネフローゼ症候群の治療薬としては承認されていませんが、海外では、本疾患に対する免疫抑制薬の1つとして推奨されています。MMFには、末梢血B細胞の増殖を抑制する働きがあり、リツキシマブ治療後のMMF内服により長期寛解維持効果とステロイド薬の減量効果が期待されています。この先進医療では、小児難治性ネフローゼ症候群の患者さんをリツキシマブ治療後にMMFを内服する群と対照薬を内服する群の2群に分け、それぞれのグループの寛解を維持する効果(再発を抑制する効果)と安全性について評価します。

◆ 対象疾患

難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群

「滋賀医科大学医学部附属病院の最新治療がわかる本」を発行

「患者さんにやさしく、信頼と満足を与える医療」を目指す本院での診療内容について、患者さんに分かりやすく解説したものです。本院の医師が、特色ある最新の治療法を紹介し、患者数の多い代表的な疾患について診断や治療法を掲載しています。院内のローソンのほか滋賀及び京都の書店でも取り扱っています。



表紙

看護師特定行為研修機関に国立大学法人で初めての指定

「看護師の特定行為研修」とは、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、病院での治療から在宅医療に移行させるため、医師等の判断を待たずに、手順書により一定の診療の補助(特定行為)



を行える看護師を計画的に養成することを目的として、厚生労働省が平成27年3月に設けた制度です。

今回、本学が指定を受けた特定行為区分は、21区分のうち3区分ですが、これを順次拡大させるとともに研修生も増員し、地域医療の充実を図ることで、滋賀県が今後10年間を見据えて策定した「滋賀県地域医療構想」に積極的に貢献することを目指しています。

院内図書室の貸出者数4万人を達成

平成28年1月21日、院内図書室(平成15年開設)の貸出者数が4万人を突破し、4万人の方々に祝辞とともに記念品を贈呈しました。



記念品授与後の記念撮影

院内図書室「かいつぶり」には、医療関連図書だけでなく、小説・エッセイ・コミック等も用意しています。「闘病記文庫」コーナーや近江の歴史・文化に関する本を集めた「近江文庫」コーナーも設けています。

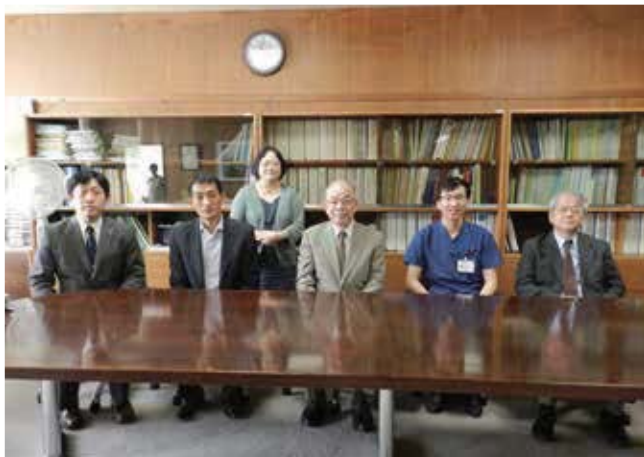
滋賀医科大学医学部附属病院ホームページは以下のURLからご覧ください。
<http://www.shiga-med.ac.jp/hospital>

モンゴル国立医科大学の医師が学長を表敬訪問

平成27年5月22日(金)

モンゴル国立医科大学から客員研究員として滋賀医科大学にいられたBat-Erdene Nyamsuren先生とTamir Sainbuyan先生が塩田学長を表敬訪問されました。本学とモンゴル国立医科大学は平成25年に国際交流協定を締結し、海外自主研修などにより交流を図ってきました。

今回、日本政府のODA（政府開発援助）により、モンゴル国首都ウランバートルに「日本モンゴル教育病院」が建設されることになり、その人材育成を目的として、同大の医師2名が本学医学部附属病院で研修を受けることになりました。



前列左から谷教授、Tamir Sainbuyan先生、塩田学長、Bat-Erdene Nyamsuren先生、堀江教授。後列は相浦教授

遠山育夫バイオメディカル・イノベーションセンター長と松浦昌宏特任教授がオタワ大学を訪問

平成27年6月18日(木)～19日(金)

カナダのオタワ大学とは平成22年2月に協約書を締結し、これまで分子神経科学研究センター（現 神経難病研究センター）を中心とした共同研究の推進や本学学生の海外自主研修、交換留学生の受入れ等で、相互に学術的、教育的活動を推進してきました。

今回の遠山育夫バイオメディカル・イノベーションセンター長と松浦昌宏特任教授の訪問により、更にグローバルアントレプレナー教育（起業家精神育成＝研究成果を実用化するための社会貢献活動を牽引できる人材の育成）で新しい連携を促進することとなりました。



会議参加者との記念撮影



イノベーション教育 Maker Space を見学

マレーシア国民大学との交流

本学とマレーシア国民大学(UKM)との国際交流協定に基づき、両校の看護学科間の交換研修を実現しました。

本学看護学科学生がマレーシア国民大学を訪問

平成27年8月3日から14日にかけて本学看護学科第4学年の齋藤 里奈さん、塚 久美子さん、藤野 美喜子さんの3名が、UKM看護学科や大学病院で研修を受けました。

帰国後の9月4日に海外研修報告会を開催し、UKM看護学科や大学病院での研修について報告を行い、内科や外科の病棟見学や訪問看護師とともに患者宅を訪問したことや、海外研修を希望する後輩へのアドバイス等もあり、報告会に参加した学生にとって海外研修の意識を高めるよい機会となりました。



UKM での Welcoming session の様子

マレーシア国民大学(UKM)の学生3名が本学で研修

平成27年12月1日から18日までの3週間、UKM看護学科から学生3名を研修生として受け入れました。

UKMの学生たちは、看護管理、感染管理、医療安全管理などについて

看護学科および看護部でレクチャーを受け、附属病院の救急・集中治療部や小児科など様々な部門を見学しました。3週目は、分子神経科学研究センターの見学と学外の高齢者施設や障害児施設を訪ねました。

最終日は、研修の成果発表会および懇談会を開催し、学生たちは、研修で学んだ知見を紹介するとともに、日本とマレーシアの看護体制を比較するなど、優れた発表を行いました。



成果発表会後の記念撮影



ウェルカムパーティーでの記念撮影

(独) 地域医療機能推進機構と 「地域医療教育研究拠点」に関する協定を締結

平成27年9月、本学と独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)は、地域医療を担う医師に対する教育、医師の養成・確保に関する協力推進に係る協定を締結し、JCHO滋賀病院と地域医療の実践と教育を円滑に推進し、幅広い診療能力を有する総合診療医の養成を行う仕組みを構築しました。

本学は、(独)国立病院機構東近江総合医療センターに滋賀医科大学地域医療教育研究拠点の活動拠点を設け、東近江医療圏の地域医療支援を行っていますが、滋賀県全体ではまだまだ医師不足の状態、滋賀県に根付く医師の更なる確保や専門診療の医師養成とともに超高齢社会に対応できる総合診療医の育成が重要な課題となっています。

今回、JCHO滋賀病院に、新たに滋賀医科大学地域医療教育研究拠点の活動拠点を設け、JCHO滋賀病院の健康管理センターや併設されている介護老人保健施設も活用し、今後の地域医療の実践と医学部学生の臨床実習教育の更なる充実を図ることとなりました。



協定書を手にする塩田学長と尾身理事長



記者会見の様子 塩田学長と来賓滋賀病院長

平成27年度滋賀県原子力防災訓練に参加

平成27年3月末に作成された滋賀県原子力防災初動対応マニュアル等に基づいて、緊急時モニタリングや屋内退避、一時移転訓練など、長浜市民約600人の参加のもと、滋賀県と長浜市合同で原子力防災訓練が行われました。

本学からは、医師1名、看護師2名、放射線技師2名、調整員1名が原子力災害に係る緊急時応急対策におけるスクリーニング訓練および緊急被ばく医療訓練に参加しました。



緊急被ばく医療訓練の様子



本学に新しく配備された車両

病院派遣型救急ワークステーションの 本格運用を開始

平成28年3月、本院は大津赤十字病院、大津市民病院と連携して、大津市・大津市消防局が主催する「病院派遣型救急ワークステーション」の運用に関する協定書の締結を行いました。

「病院派遣型救急ワークステーション」では、救急隊員が病院に月4～6回駐在し、本院の医師の指導のもと救急措置や心肺蘇生法等の実習等を受け、資質向上を図ります。また、出勤要請時



協定書を手にする関係者：中央が越大津市長、その左が塩田学長

には、本院の医師や看護師が同乗して救急現場に駆けつけ、必要に応じて現場での治療行為を行うことで、救命率の向上を図ります。この取り組みは、滋賀県では初、全国でも57消防本部しか行っていない先進的なものです。

本院では、平成26年6月に「ヘリポート」を新設して京滋ドクターヘリに参画しました。そして、平成28年4月からは大津市の救急医療体制「病院群輪番制」に参加するとともに、「救急科」を標榜する等、地域医療の「救急・災害医療」の充実に取り組んでいます。



関係者による記念撮影 前列左から二人目 塩田学長、後列左から4人目松末病院長

小・中・高等学校に対する教育サービス

県内を主とした小・中・高等学校からの依頼を受け、出前授業を行っています。医学・看護学を身近に感じてもらうように、医学や看護学につながる基本的な学問についての講義や実習を行っています。

また、高大連携事業は、県内10校から生徒を受け入れ、本学での講義や実習などを行っているほか、滋賀県教育委員会からの依頼によるSSH科学技術人材育成重点枠事業「Shiga Science Project 2015」を実施しています。

平成25年6月にオープンした「メディカルミュージアム」では、人体模型、骨格標本、ヒト病理標本、バーチャルスライドシステムを配置しており、各校来訪の際にはミュージアムの見学も行っています。



虎姫高校：SSH事業



立命館守山高校：夏休み1日実習

平成27年度の概況

平成27年度の財務状況は、附属病院収益や受託研究等収益の増により1,011百万円の損益黒字(貸借対照表、損益計算書)、収支(決算報告書)においても478百万円の黒字となりました。

貸借対照表について

資産の部は、病院の基幹環境(液化酸素製造施設等)整備による建物等の増により、前年度比1,000百万円増の44,982百万円となりました。

負債の部は、リース資産等の増により、前年度比399百万円増の26,387百万円になりました。

(単位: 百万円)

資産の部			
	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
I 固定資産	33,466	33,911	445
1.有形固定資産	33,402	33,841	440
土地	10,163	10,163	0
建物及び構築物	17,593	16,691	△ 902
その他の有形固定資産	5,647	1,340	△ 4,307
2.無形固定資産	64	70	6
II 流動資産	10,516	11,071	555
現金及び預金	5,587	5,564	△ 22
未収附属病院収入	4,101	4,846	745
その他の流動資産	828	661	△ 166
資産合計	43,982	44,982	1,000

負債の部			
	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
I 固定負債	18,570	18,570	0
長期借入金	14,236	13,021	△ 1,215
長期リース債務	158	1,602	1,444
その他の固定負債	4,177	4,148	△ 29
II 流動負債	7,418	7,617	199
寄附金債務	1,333	1,330	△ 3
一年以内返済長期借入金	1,241	1,354	113
未払金	3,638	3,331	△ 307
リース債務	156	572	416
その他の流動負債	1,050	1,030	△ 20
負債の合計	25,988	26,387	399

純資産の部			
	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
I 資本金	14,100	14,100	0
II 資本剰余金	3,853	3,443	△ 410
III 利益剰余金	41	41	0
前中期目標期間繰越積立金	358	41	△ 317
積立金	167	0	△ 167
当期末処分利益(損失)	△ 484	1,011	1,494
純資産合計	17,994	18,595	600
負債・純資産 合計	43,982	44,982	1,000

損益計算書について

経常収益は、附属病院収益等の増により、前年度比1,619百万円増の29,530百万円となりました。経常費用は、中期的な人員計画に基づく増員等に伴う人件費の増等により、前年度比204百万円増の28,602百万円となりました。

(単位: 百万円)

費 用			
	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
業務費	24,835	25,109	274
教育経費	444	428	△ 15
研究経費	763	717	△ 46
診療経費	10,557	10,622	65
教育研究支援経費	132	124	△ 9
受託研究事業費	534	592	58
人件費	12,405	12,627	221
一般管理費	478	525	47
財務費用	251	234	△ 17
減価償却費	2,832	2,735	△ 97
合 計	28,397	28,602	204

収 益			
	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
運営費交付金収益	5,464	5,716	252
学生納付金収益	654	650	△ 4
附属病院収益	19,669	20,785	1,116
受託研究等収益	660	878	219
寄附金収益	428	478	50
施設費収益	26	4	△ 21
補助金等収益	255	221	△ 34
その他の収益	755	796	41
合 計	27,911	29,530	1,619

	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
経常利益	△ 485	928	1,413
臨時損益	2	83	81
目的積立金取崩額	0	0	0
当期総利益(損失)	△ 484	1,011	1,494

決算報告書について

収入は、長期借入金収入や施設整備費補助金等の減により、前年度比134百万円減の29,192百万円となりました。

支出は、施設整備費等の減により、前年度比123百万円減の28,714百万円となりました。

(単位: 百万円)

収 入			
	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
運営費交付金	5,707	6,174	467
施設整備費補助金	309	18	△ 290
補助金等収入	479	265	△ 214
自己収入	20,793	20,872	79
授業料、入学科及び検定料収入	634	640	6
附属病院収入	19,801	19,990	188
雑収入	358	242	△ 116
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,163	1,323	159
長期借入金収入	500	139	△ 361
その他の収入	375	369	△ 6
合 計	29,326	29,192	△ 134

支 出			
	①平成26年度	②平成27年度	増減②—①
業務費	24,980	25,457	476
教育研究経費	4,593	4,643	50
診療経費	20,387	20,814	427
施設整備費	841	189	△ 651
補助金等	469	265	△ 204
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,086	1,340	254
長期借入金償還金	1,461	1,463	2
合 計	28,837	28,714	△ 123

収入—支出	489	478	△ 10
-------	-----	-----	------

※百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計額と一致しないことがあります。

機能強化に向けて

持続的に発展し、活力ある大学を目指して機能強化に向けた様々な取組を行いました。

教育研究組織の再編成

- 分子神経科学研究センターの神経難病研究センターへの改組と内科学講座(神経内科)の新設を軸として、認知症・神経難病、疫学研究、サルを用いた研究を融合させた教育研究体制構築準備を整えました。
- 臨床研究におけるガバナンス体制強化のため、臨床研究開発センターに専任教授を招致し、学長のリーダーシップにより臨床研究中核病院に向け、同センターを大きく改組しました。

人事・給与システムの弾力化

- クロスアポイントメント制度を新規導入し、教員1名に適用しました。

大学正門を全面改修

今回の工事で、正門と中庭へ続く歩道を全面改修しました。この改修により、大学の顔としての風格を備えた正門からは、シンボルのヒポクラテスの木、中庭を一直線に見通すことができ、正門一帯の美観と機能性が格段に向上しました。平成28年4月の入学式では、新しくなった校名を掲げた門柱の前で多くの新入生が記念撮影を行う姿が見られました。



改修後の正門

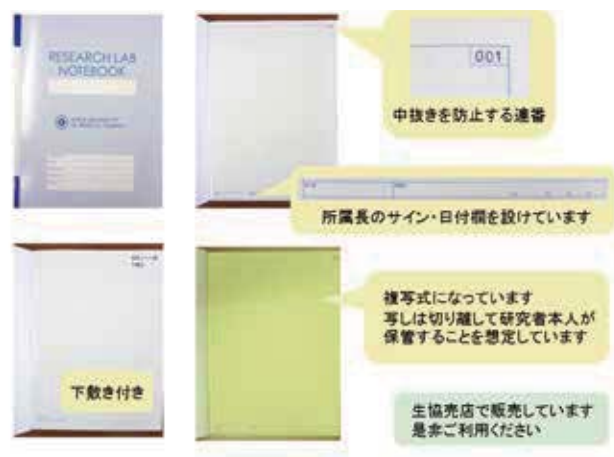
徹底した研究倫理教育

研究倫理教育教材の通読とレポート提出

- 研究倫理に関する規範意識の徹底の一環として、すべての研究者に研究倫理教育教材の通読とレポートの提出を義務付けました。

大学オリジナルの研究ノートを作成

- 大学独自の複写式研究ノートを作成し、研究倫理教育研修会において適正なデータ管理の重要性について説明し、広く利用を促しました。



研究データの保存期間を規定

- 研究データの保存期間を「論文発表後10年間」と規定しました。



改修前の正門

学内保育施設を充実

平成27年4月から、教職員から要望があった夜間保育(毎週金曜日)を学内保育施設で開始し、看護師の交代制勤務、女性医師の宿直業務を支援しています。また、新しく給食の提供を開始し、保育施設の更なる充実を図りました。

優秀な女性研究者を表彰

平成28年3月、優秀な女性研究者の研究活動を表彰することを目的として平成25年度に創設した「女性研究者賞」の表彰式を行いました。

代表論文の評価や研究の独創性、発展性など厳正な審査を経て、アジア疫学研究センター 門田 文特任准教授に賞状と副賞を授与しました。



授与式の様子

本学の三大使命を表現したロゴマークが決定

本学の三大使命(3C : Creation, Challenge, Contribution)を表現した新しいロゴマークが決定しました。

ロゴマークデザインは学内で募集を行い、役員による厳正な審査の結果、修士課程看護学専攻 中村 太志さんの作品が採用され、学長から副賞が贈呈されました。

学長からは、「本学の使命がうまくデザインに表現されている。大切に使いしていきたい。」とお礼の言葉が贈られました。



3Cロゴマーク

滋賀医科大学の三大使命

滋賀医科大学は、地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、人々の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献するために、次の3Cを推進する。

3C

Creation : 優れた医療人の育成と新しい医学・看護学・医療の創造

Challenge : 優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦

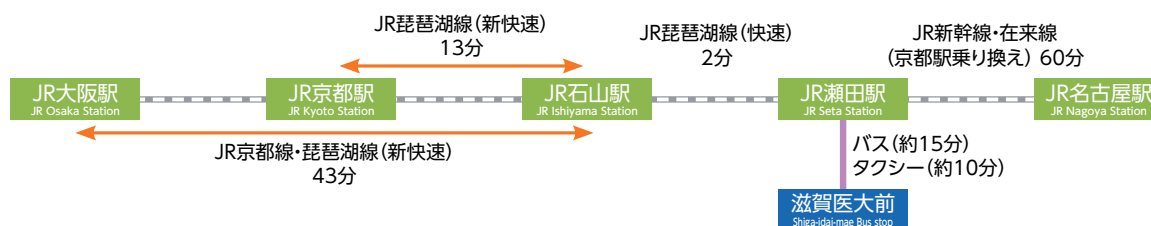
Contribution : 医学・看護学・医療を通じた社会貢献

その実現のために、以下の事項に重点的に取り組む。

1. ガバナンス体制を確立し、学長のリーダーシップの下に積極的な教育研究組織の改組を行い、第2期中期目標期間の取組を発展させて学内環境の整備を進めるとともに、IR (institutional research)に基づいて人的・財的資源の効果的な活用を図り、大学のアイデンティティと強みをより堅固なものにする。また、学内対話を促進し、学内の意志を統一して機能強化と改革を進める。
2. 入試改革では、アドミッションオフィスにアドミッションオフィサーを配置し、医療人としての素質に富む受験生を開拓し選抜する。
3. 教育面では、地域・基盤型教育による全人的医療を目指す医療人、医学系・保健系分野で世界を視野に活躍できる実践者・研究者を育成する。また、医療を取り巻く環境の変化、時代の要請に対応し国際基準に基づく医学教育、世界標準を見据えた看護学教育を実践する。
地域医療教育研究拠点によるシームレスな卒前教育・卒後研修を通して地域医療を担う医療人を育成する。
4. 研究面では、選択と集中により、重点研究領域(アジアに展開する生活習慣病疫学研究、認知症を中心とする神経難病研究、基礎と臨床の融合による先端がん治療研究など)を定め、ロードマップを策定して推進する。
先進医療機器開発などの産学官連携を推進し、医療水準の向上に取り組む。
若手萌芽研究、基礎臨床融合研究、イノベーション創出研究を支援し、それらの社会還元を推進する。
5. 附属病院では、医療の質の向上を図り、特定機能病院として地域の医療の中核を担う。社会構造の変化に対応して、常に病院機能を見直すとともに、質の高い先進医療・低侵襲医療の提供と、新たな医療技術の開発を推進する。
6. 県内唯一の医育機関として行政と連携し、地域医療を実践する医師のキャリア形成支援によって地域医療の充実に貢献する。また、医療従事者の研修等を通じて地域医療の質の向上に寄与する。



<http://www.shiga-med.ac.jp/>



名神高速道路を
ご利用の場合

草津田上インターで高速道路を降り、料金所を出てすぐの信号を左折。
約300m先の「医科大学北口」信号を越えてすぐの交差点を左折、突き当たりを右折し約400m。

ご意見等の
連絡先

滋賀医科大学 企画課

T E L ● 077-548-2012
E-mail ● hqhojin@belle.shiga-med.ac.jp
住 所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただきたいと考えています。
お気づきの点等がございましたら、企画課にご連絡くださいますよう、よろしくお願いいたします。